



平成26年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

年次報告書

これは、ひとりの個人の年1200万円10年間の寄附を原資とし、
その他多くの方々の寄附をいただいで活動しています。



東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
TEL&FAX : 022-795-3263
E-MAIL : s.children@sed.tohoku.ac.jp



平成26年度 年次報告書

目次

■ 概 要・スタッフ	01
■ 活動内容	
1. 相談実績	03
2. 里親サロン	04
3. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など	05
4. 研修講師の派遣	07
5. 会議、情報交換会出席	07
6. 関連自治体・団体への訪問	07
7. 講演会、研修会等出席、相談員研修(スーパービジョン)	08
8. 支援室来室対応、情報交換	08
9. 報道関係、来室対応	08
10. 広報・出版物・報告書	09
11. その他の活動	09

平成26年度 「震災子ども支援室」活動報告

● 概要

今年度は、前年度の事業継続としては、相談活動、親族里親サロン、南三陸町子ども支援連絡調整会議、研修講師派遣、シンポジウムを行った。開室当初は保護者や関係者相談が多かったが、次第に子ども本人の相談につながってきている。その他、依頼に基づいて、被災地の中学校での保健講話、校内の震災遺児・孤児への対応に関する教員研修、災害後の心理士の対応に関する学校心理士会研修に出向いた。学校、保護者、支援機関や行政との連携も進み、ケース会議、情報交換、里親家庭への訪問相談も続けている。

今年度の新たな取り組みとして主なものは以下の4点である。第一に前年度行われた親族里親面接調査の回答をもとに、『この子を育てる』と題した冊子を作成し、関連機関を通じて配布した。

第二には、遺児家庭サロンがある。前年度、東部保健福祉事務所と当支援室共催により、試行的に実施していたが、本年度は、石巻において定期的開催（2か月に1度）とした。今年度は参加者数が少なかったが、開催のお知らせをきっかけに遺児家庭とつながることができる意味は大きいと考えられる。来年度は、より利用しやすいプログラムの検討を行っていきたい。

第三に、震災孤児家庭を対象とする講演会を開催した。これは、里親サロンに集まる親族里親の方々の声をもとに、「未成年後見人制度と里親制度」の理解と上手な利用を目的としたものである。両制度に詳しい弁護士に講師をお願いし、気仙沼、石巻、仙台を会場とし、宮城県児童相談所および仙台市児童相談所の協力を得て対象者に周知をはかった。当日は、各地の保健福祉課、児童相談所職員等の参加も多くみられた。当日の内容や質疑応答は、講演集としてまとめ、当日来場できなかった方々に配布することを予定している。

第四は、青年期用パンフレットの作成がある。震災子ども支援室の周知を目的として従来使用されてきたパンフレット・カードは、イラストや文章表現に、幾分、幼児や児童生徒向けと思われるところがあった。そこで、高校卒業後の震災孤児・遺児を意識し、特に、「地元を離れても利用可能」であること、「東北の文化を尊重したかわり」であることを伝える青年期用パンフレット・カードとした。

阪神淡路大震災後、兵庫県教育委員会は、震災前に生まれた全ての子どもが中学校を卒業するまでの長期継続的な見守りを続けた。その15年間の中で、小中学校に在籍する要配慮児童生徒数は、3年目をピークに全学年において減少していったが、はっきりとした減少に転ずるまでには5年の年月を要したとされている*。東日本大震災から平成27年3月でまる4年。まだまだ息の長い活動が必要である。

*兵庫県教育委員会 2010「平成21年度阪神・淡路大震災の影響により心の健康について教育的配慮を必要とする生徒の状況等に関する調査の結果について」

● スタッフ

室長：加藤 道代（教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士）

相談員：平井 美弥（臨床発達心理士）

相談員：押野 晶子（保健師・看護師）

相談員：大堀 和子



平成23年3月20日 石巻市中瀬公園



平成26年3月20日 石巻市中瀬公園

1 相談実績

相談活動は、当事者相談をはじめとし、支援者支援、震災に関わる多岐の事柄に対して行った。

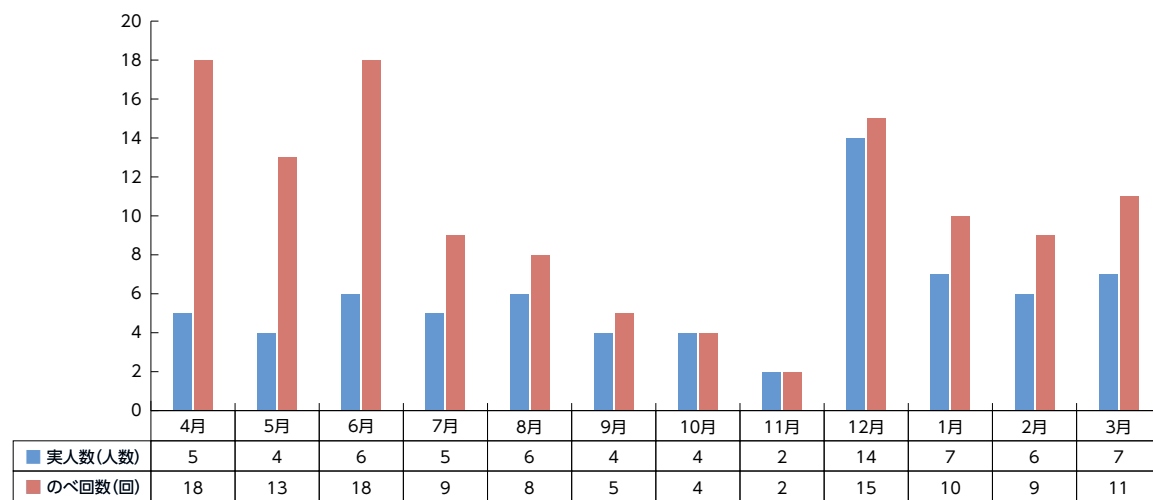
● 当事者相談

当事者相談は、子どもや保護者からの電話相談、面接相談(来所、訪問)を行っている。ケースコーディネーションとは、他機関からの相談を受けたり、ニーズに基づいて情報や機関を紹介している。組織運営に関するアドバイスとは、他機関への助言等である。

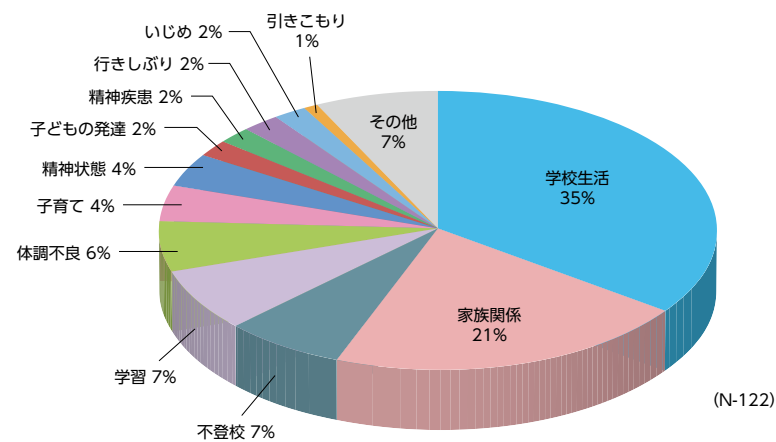
	実数(人数)		延べ相談回数
	新規	継続	
電話相談	34	36	122
訪問、来所ケース	5	7	52
ケースコーディネーション	2	0	2
組織運営に関するアドバイス	1	1	2
支援室内ケースカンファレンス	7	5	25

(平成26年4月1日～平成27年3月末日現在)

2014年度 電話相談件数



電話相談種別グラフ



● 様々な活動のサポート

他機関の事業への協力や、サポートを提供したい側と受ける側のニーズに合わせた情報の提供や橋渡しを行っている。

1 南三陸町保健福祉課

南三陸町保健福祉課が主催し、震災後の子どもたちの心身の健康と健全な発達を支援していくための目的で、平成24年度から「南三陸町子ども支援連絡調整会議」運営実施への協力を行っている。調整会議の実施によって、地域の各幼児・児童・生徒関連施設や、保健福祉課が情報交換し連携を深めている。

2 宮城県東部保健福祉事務所

東部保健福祉事務所が主催の「震災遺児ひとり親家庭子育て交流会」へファシリテーターとして協力、参加している。初年度は親子で一緒に活動する場面と、親子分かれてのプログラムを行った。2年目はひとり親になられた方を対象としたサロン(交流会)を開催した。(平成26年 7/9、9/3、11/12、12/10、平成27年 2/25)

3 公益財団法人 徳島森林づくり推進機構

平成25年度から、徳島県科学技術高等学校の生徒さんが製作された遊具を、巨理町内の児童館や保育所へ寄贈するための橋渡し役として関わった。また、製作に携わった高校生が来県された際に、被災地の現状を講話した。

4 公益財団法人 みちのく未来基金

みちのく未来基金職員スタッフに向けた研修を行った。また、奨学金の給付を受けている、現在大学生となった「みちのく生」との座談会を行い話を伺った。

2 里親サロン

宮城県東部児童相談所、東部児童相談所気仙沼支所、宮城県里親連合会との共催で、震災孤児を預かっている親族里親に対して、親族里親サロンを行っている。里親サロンは「安心してゆっくりとくつろいでお話しできる場所」を目指したものであり、そのなかでは子育てについての話など、同じ立場だからこそ分かち合える場所として利用されています。今年度は、預かっていらっしゃるお子様が思春期を迎える方が多く、その時期の子育ての難しさ、勉強についてのお話が話題に上がりました。また、昨年度に引き続き今年度も、石巻、気仙沼地域の里親さん合同の親睦会を行い、相談員(保健師)による筋膜ケアをしました。



	回数	今年度	場 所
石巻	1	2014/5/27(火)	東部児童相談所
	2	2014/8/26(火)	東部児童相談所
	3	2015/2/17(火)	東部児童相談所
東松島	1	2014/7/15(火)	東松島市コミュニティセンター
	2	2014/10/28(火)	東松島市コミュニティセンター
気仙沼	1	2014/6/18(水)	本吉町公民館
	2	2014/9/17(水)	本吉町公民館
	3	2015/1/30(金)	本吉町公民館
	4	2015/3/4(水)	本吉町公民館
名取	1	2014/9/10(水)	中央児童相談所
親睦会	1	2014/12/2(火)	南三陸ホテル観洋

3 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など

1 シンポジウム「東日本大震災で親を亡くした子どもたちへの支援」～震災後4年目の現状と課題～

東日本大震災から今日までの3年11ヶ月の間、震災で親を亡くされた子どもたちやその保護者の支援に携わっていた方々の報告をもとに、議論した。

(平成27年2月7日(土)、東北大学文科系総合棟11階大会議室、参加者数34名)



東部保健福祉事務所 保健師

三澤 美香氏

報告1

“遺児家庭支援の現状と課題” ～交流会をたち上げるまでの経過～

宮城県内の震災遺児世帯は562世帯。石巻管内はそのうち全体の約35%にあたる204世帯である。平成25年に宮城県が実施したアンケート調査では、そうした方々の約半数が小学生以下の小さなお子さんを養育している現状にあった。親子が心身ともに健康状態が向上することを目的に親子交流会を行う事で「安心して話ができる場所」や「話をしたい」と考えていることがわかった。交流会の場を通じて「一人ではないから、一緒に考えていこう」というメッセージを皆さんに送り続けていきたい。



公益財団法人「みちのく未来基金」

中村 杏菜氏

報告2

“震災遺児に進学の夢を!”

震災で約1,700名を超える子どもたちが震災遺児・孤児となった。そうした子どもたちの高校卒業後までの支援は行政を含め様々あったが、その後の進学支援はほとんどない状態だった。そこで民間3社(現在4社)が共同し基金を設立。年間300万を上限に返済不要の奨学金を給付。顔の見える基金でありたいという思いから、一人ひとりとの面談を大切に行っている。震災当時胎児だった子を含む子どもたちが、大学を卒業するまでの25年間活動を続けていく。



東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室
“S-チル”相談員

押野 晶子

報告3

“親族里親調査からみてきたもの”

宮城県の震災孤児数は135名。そのうち約50名の子どもたちが親族里親(親族)のもとで生活をしている。突然保護者になられた親族里親は、自身の喪失の悲しみと向きあいながら、日々子どもたちと接している。「この子を育てるのは自分しかない」という使命感を持ち、「この子がいるから生きていられる」と子どもの存在を励みにしながら生活を送っている親族里親さんに対して、今後も親族里親サロン等を通して支援をしていきたい。

3名のシンポジストのお話から、パートナーを亡くされた保護者の方がお一人で子育てをされていく中での不安な気持ちや、ご自身の体調や経済的なこと等不安を抱えられて生活を送られていることを知りました。また、高校卒業後の遺児や孤児たちが進学の夢を支える様子や、孤児を養育されている親族里親の調査報告から、使命感や覚悟を持ちながらも子どもを預かり、大変な中でも子どもの成長を喜ばれている姿が感じられました。1ヶ所の支援団体だけではできないことには限りがありますが、お互いに自分たちができることや、得意な部分を出し合いながら協力していくことで、支援の輪が広がり、よりニーズに応じた支援ができていくのではないかと思います。



2 研修会「未成年後見人制度・里親制度について」

親族里親及び親族里親に関わる方を対象に、未成年後見人制度、里親制度の違いや、成人後の里子の財産管理について学ぶことを目的とした研修会を実施しました。(平成26年7月7日 気仙沼参加者数17名、10月20日石巻参加者数30名、11月4日仙台参加者数19名 総参加者66名)



青葉法律事務所 弁護士 花島 伸行氏



震災翌年から、宮城県里親連合会、宮城県東部児童相談所と共催で親族里親サロンを開催してきました。そのサロンの中で、「未成年後見人制度」の利用について話題になりました。今回、花島弁護士から、法律の分かりにくさを、やさしく教えて頂くことができました。参加者には親族里親以外にも、多くの行政相談担当業務の方々や民間の支援団体の方にもお集まりいただき、理解を深めることができました。

活動内容

4 研修講師の派遣

- 1 仙台白百合女子大学「震災子ども支援室“S-チル”の取り組みについて」
(平成26年5月22日:仙台市:講師・平井美弥)
- 2 大崎市鹿島台小学校「東日本大震災を経験した児童の理解と対応について」
(平成26年8月19日:大崎市:講師・平井美弥)
- 3 気仙沼市立面瀬中学校「思春期とストレス」
(平成26年10月30日:気仙沼市:講師・加藤道代)
- 4 公益財団法人みちのく未来基金スタッフ研修
(平成26年10月27日:仙台市:講師・加藤道代)
- 5 宮城県子ども総合センター「震災子ども支援室“S-チル”の取り組み～震災遺児・孤児支援から見えてきたもの～」
(平成26年12月1日:岩沼市:講師・平井美弥)
- 6 徳島県立徳島科学技術高等学校「震災子ども支援室“S-チル”の取り組み～東日本大震災で親をなくした子どもの養育に関する調査～」
(平成26年12月2日:仙台市:講師・平井美弥)
- 7 東北大学復興アクション100+ シンポジウム「被災者支援の今後の課題について考える“震災孤児の親族里親の声から”」
(平成27年3月8日:仙台市:シンポジスト・加藤道代)
- 8 第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「東日本大震災で親をなくした子どもの養育に関する調査から」
(平成27年3月18日:仙台市:シンポジスト・平井美弥)

5 会議、情報交換会出席

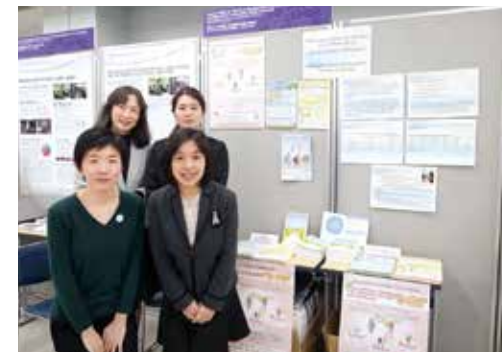
日程	内容	出席
平成26年6月6日、10月3日、平成27年2月6日	子どもの心のケアに関する会議（宮城県子ども総合センター主催）	平井
平成26年11月5日	第4回南三陸町子ども支援連絡調整会議（南三陸町保健福祉課主催:南三陸町）	加藤・大堀
平成26年11月18日	子どもの心のケア対策地域連絡会議（宮城県中央児童相談所主催）	押野
平成27年1月15日	子どもの心のケア対策地域連絡会議（宮城県東部児童相談所主催）	平井

6 関連自治体・団体への訪問

日程	行先	日程	行先
平成26年 4月11日	宮城県東部児童相談所気仙沼支所 宮城県気仙沼保健福祉事務所	平成26年 6月25日	仙台いのちの電話
4月18日	青葉法律事務所	7月9日	石巻専修大学
4月22日	宮城県東部児童相談所	8月22日	岩手県 いわてこどもケアセンター
4月30日	宮城県中央児童相談所 宮城県子ども総合センター	8月27日	仙台市児童相談所
5月28日	あしなが育英会	8月29日	南三陸町保健福祉課
		平成27年 3月14日	公益財団法人みちのく未来基金 第4期生のつどい

7 講演会、研修会等出席、相談員研修（スーパービジョン）

日程	内容	出席
平成26年 11月1日、2日	東北心理学会ポスター発表 「東日本大震災で親をなくした子どもの養育に関する調査-親族里親の声から-」 (東北心理学会主催)	加藤・平井
11月22日、23日	学校関係者のための「こころの震災復興支援」研修会 (東北大学大学院教育学研究科主催)	平井・押野・大堀
4月11日、6月13日、8月8日、10月10日、12月12日、2月13日	安井臨床心理士によるSV	
平成27年 3月14日	第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム 逃げ遅れる人々 東日本大震災と障害者（CILたすけっと主催）	大堀
3月16日	第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム 持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開 ～より良い子ども達の未来に向けて～ (文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学主催)	平井
3月17日	第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム 大規模災害時における後見人の役割と責任（日本司法書士会連合会主催）	大堀
3月17日	第3回国連防災世界会議 特設上映 大津波 THE 3.11 未来への記憶 TSUNAMI（東北大学災害科学国際研究所出席）	加藤



8 支援室来室対応、情報交換

平成26年 4月2日	公益財団法人みちのく未来基金
7月3日	国際紙パルプ商事株式会社
9月19日	公益財団法人みちのく未来基金
12月12日	徳島県立徳島科学技術高等学校 とくしま森林推進機構
平成27年 2月6日	復興大学とインターンシップ生 (在ロイヤルメルボルン大学)
3月5日	公益財団法人みちのく未来基金

9 報道関係、来室対応

平成26年 5月13日	河北新報(5/23掲載)
12月25日	NHK東北支局

10 広報・出版物・報告書

1 「この子を育てる」
(親族里親調査の
回答をまとめた冊子)



6 “S-チル”ニュースレターの作成と配布



2 シンポジウム報告書
「東日本大震災で親を亡くした
子どもたちへの支援」
～震災後4年目の現状と課題～
(平成27年2月7日(土)実施)
報告書作成と配布



7 ホームページの刷新、フェイスブック更新

8 研修会資料の電子ジャーナル化
(東北大学中央図書館)

9 第3回国連防災世界会議出展
(平成27年3月14～18日)

3 「震災子ども支援室」
青年期用広報チラシ



10 Raising this child
(この子を育てる)
英語版



4 FREEPAPER (ままぱれ宮城版)に掲載



5 東北大学オープンキャンパスに出展
(平成26年7月30、31日)



11 震災子ども支援室各チラシ 英語版



11 その他の活動

日程	内容	出席
平成26年 9月13日	多賀城市仮設住宅支援活動 多賀城公園野球場仮設住宅集会所(宮城県臨床心理士会、仮設住宅住民主催)	平井・押野

編集者

- 加藤 道代 東北大学大学院教育学研究科教授
震災子ども支援室室長
- 平井 美弥 震災子ども支援室主任相談員
- 押野 晶子 震災子ども支援室相談員
- 大堀 和子 震災子ども支援室相談員

平成26年度
東北大学大学院教育学研究科
震災子ども支援室 “S-チル”
年次報告書

2015年5月30日

発行者 東北大学大学院教育学研究科 震災子ども支援室
代表者 加藤 道代
住所 仙台市青葉区川内27-1
Tel/Fax 022-795-3263
E-mail s.children@sed.tohoku.ac.jp